

2022年

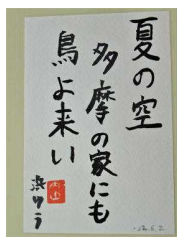
# 11月のカレンダー 学びの広場

みんなのちからで36年  
(今年の9月で36年目を迎えました)

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
	空欄の日にはマンツマンなど個別の活動をしています。 空いているところに、ご自分の予定を記入してお使いください。				金曜デイ 10~1時 アート	人形劇 12~2時
6	7	8	9	10	11	12
				スタッフ ミーティング 10~1時	金曜デイ 10~1時 湧水巡り	青年の会 10~1時 外出 多摩川方面
13	14	15	16	17	18	19
				スタッフ ミーティング	金曜デイ 10~1時 織りもの	織りもの 10~12時
20	21	22	23	24	25	26
	織りもの 10:30~12:30			スタッフ ミーティング	金曜デイ 10~1時 ボランティア(小平)	青年の会 10~1時 アート
27	28	29	30			

## 【マンツマンの風景】

その①



Uさんとの月に一度のマンツマンは  
発声練習のあと、俳句作りです。  
それが前半。上が彼女の作品  
です。横浜から緑豊かな多摩  
地区に越す前の気持ちですね。  
「広場」への時間も3分の1ほどに  
短縮されました。

その②



Sさんとは近頃、宮沢賢治の  
物語を読んでます。その後で  
ワードで打ったら自分だけの  
文学アルバムができました。



10月のギャラリーから

「秋のお皿」  
～葉っぱのフロッター-ジュ



★学びの広場に入室する時には、マスク  
の着用、手指の消毒をお願いします。  
また、ご家庭での検温など健康管理  
にご協力ください。

学びの広場

TEL&FAX 042-322-7160

H P <http://manabinohiroba.com/>

E-mail [hiroba@pop17.odn.ne.jp](mailto:hiroba@pop17.odn.ne.jp)



いこう会外出



10/2(日)は最高の秋日和。  
いこう会は立川で絵を見て、  
歩いて、昼食会を開きました。



マスクはずせばよかったなあ。  
綿引さんが撮ってくれました。



昭和記念公園にて。  
六人のサムライ  
(撮ってる人を入れる  
と七人ですが…)



9/30湧水巡り  
殿ヶ谷戸庭園で



10/8青年の会 武蔵野ふるさと歴史館へ



入口にあった鉄道模型

皆様こんにちは

私は第一金曜と第四土曜のARTの時間を松崎さんから引き継いだ  
福田洋子です。どうぞよろしくお願い致します。



(文春文庫)

最近読んだ本について書いてみようと思います。



トウヒの木

「旅をする木」著者星野道夫、みなさん多くの方が読まれたことと思います。1995年第1刷、2020年第53刷です。私は本屋さんをうろうろして、ほとんどタイトルで決めて、立ち読みして、イケそうと思うと購入します。読もうと買って、立ち読みで終わってる本もいっぱいあります(笑)。

もうどれだけ前だったか忘れてしまいましたが、アラスカに魅せられ、移住し、熊に襲われなくなった(1996年)というのは、どこかで記憶がありましたが、ああこの人だったのかとつながり、同じ歳というのが何か同期の嬉しさがありました。

アラスカなんて、なんにもない原野だと思ってたのが、なんと豊かな人の営みがあり、生命があり、自然というのがありのままの形であるのか、本の中の、寒いことが人の気持ちを暖め、離れていることが人と人を近づけるとい言葉はささります。

悠久の時の中で私達も又生と死をくり返し、命はつながっていくというあたりまえの生き物としてあることを再認識します。そして同時に私達はたった1回の生命を生きているということを実感させられます。

本の中にも出てくる、タイトルになってる旅をする木というのは、トウヒの種子の物語です。

偶然から川沿いの森に根づいたトウヒの種子が大木に成長し、長い歳月で、川の浸食は少しずつ森を削ってゆき、やがてその木が川岸に立つ時代がやってくる。春の雪解けの洪水にさらわれた大木は、ユーコン川を旅し、ついにはベーリング海へと運ばれてゆく。そして遠い北のツンドラ地帯へとたどり着かせるのです。

打ち上げられた流木は木のないツンドラの世界でひとつのランドマークとなり、キツネが匂いをつけ、エスキモーがワナを仕掛ける…1本のトウヒの木の果てしない旅は、原野の家の薪ストーブの中で終わるのだが、燃え尽きた大気の中から、生まれ変わったトウヒの新たな旅も始まってゆく。

誰もがそれぞれの一生の中で旅をしているのでしょうかという、表紙に書かれた文章がしみじみと身にしみます。